

学びの場の在り方が問われるVUCAの時代

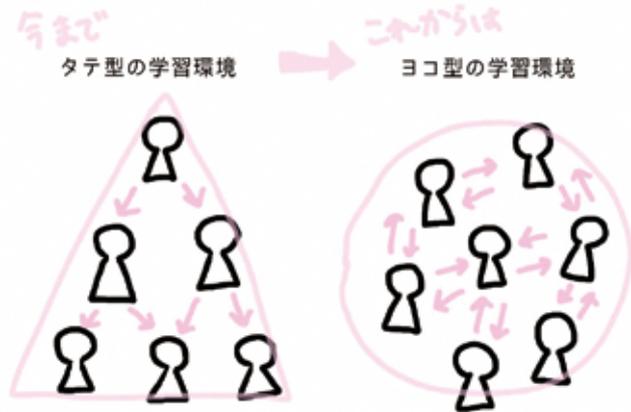
近年、学びの場が大きな変革を迎えています。これは、ビジネスや社会全体がVUCA(不確実性、不安定性、複雑性、曖昧性)の時代を迎え、従来の学び方が時代にそぐわなくなったからです。

社会人類学者の中根千枝さんは、日本の社会を「タテ社会」と指摘しました。先生から生徒へ、上司から部下へ、上から下へ情報を受け取るだけでは、変化への適応が難しくなっています。先生や上司の経験や知識が、そのまま次の時代でも通用するとは限らないからです。

また、これはものづくりの現場でも同様のことが言えるでしょう。今までは下請けとして、お客さんの言う通りの商品を作っていた企業でも、いつその商品の需要がなくなるかわかりません。定期的に、自分達の強みを見直し、世の中の需要を自分達で感じ取っておく必要があります。1つの対策法として、自社製品を開発する元下請け企業も増えています。

大切なのはタテではなくヨコのつながり

ただ上の人の言っていることを勉強するのではだめ。じゃあどうやって自社製品や新しいビジネスを考えたらいいんだ…。そう思う方も多いでしょう。そこでおすすめしたいのが「ヨコの繋がりを作ること」です。



これから学びの場で求められるのは、単なる知識の受け渡しではなく、ヨコのつながり、つまり年齢や立場関係なく、お互いを刺激し合い、気づきを得るような学び方です。

ヨコの繋がりをつくるため、セミナーに参加するのも1つの手です。従来のような先生や講師が中心の受動的なセミナーではなく、参加者同士が教え合い、共に成長するアクティブな関係性を築く形式のセミナーや取り組みが増えています。以下に事例を2つ紹介します。

事例-1 マーケティング+デザイン・ゼミナール

自社製品の販路構築を考えたい方へおすすめ!

マーケティング+デザイン・ゼミナールは、京都府中小企業

技術センターが主催するセミナーです。デザインとマーケティングを活用し、売れるものづくりを支援します。

- 主な内容**
前年度は、参加企業はほぼ毎月1回集まり、3月に最終回を迎えました(全9回・1回あたり2時間)。今年度も開催予定です。
- 参加方法**
興味のある方はデザイン情報係までお問い合わせください。



事例-2 DESIGN KYOTO(デザインキョウト)

京都の企業と幅広く交流したい人へおすすめ!

「DESIGN KYOTO」は、一般社団法人Design Week Kyoto 実行委員会が主催する「モノづくり現場の担い手たちが切磋琢磨しあうコミュニティ」です。

- 主な活動内容**
 - ①勉強会や交流会(月に1回+αを予定)
 - ②京都府内におけるオープンサイト(1-2ヶ月に1回を予定)
 - ③他地域等への訪問・交流ツアー(年に2-3回を予定)
- DESIGN KYOTO はこんな方におすすめ!**
 - ・自分が携わるモノづくりをもっとおもしろくしたい!そのために視野を広げたい、新しいアイデアや刺激、学びを得られる機会が欲しいと考えている方
 - ・他のモノづくり現場を訪問し合ったり、情報交換をしたり、お互いを高め合える仲間が欲しい方
 - ・組織の未来を担う次世代のメンバーに、知識や視野の幅を広げ、イノベーションを起こせる人材に育ててもらいたいと考えている経営者や、自分自身がそう考えている次期経営者の方
 - ※会社の社員としても、個人としても、どちらでも参加可能。
- 参加方法**
随時、オープンサイトやツアーが開催されているので、**[DESIGN WEEK KYOTO]**で検索し、webサイトやSNSをチェックしてください。